

2002 年度末役員会報告

【日時】 2003 年 3 月 8 日（土） 16:00～19:00

【会場】 文部科学省 5 F 会議室

【出席】 代表者…中塚義実／幹事…宇都宮徹彦 笹原勉 本多克己 / 会計・名簿担当…川井寿裕

【欠席】 幹事…内田正人 長岡茂／監査役…仲澤眞／メーリングリスト担当… 涌田龍治

<目次>

< I > 役員会と総会の位置づけ

< II > 2002 年度事業報告及び決算

1. 事業報告
2. 決算報告

< III > 2003 年度について

1. 2003 年度会員募集
2. 規約の改正
3. 2003 年度の役員構成
4. 組織としてのサロン 2002 の今後
5. 今後の進め方

I. 役員会と総会の位置づけ

2002 年度末の総会は例年どおり「ホームページ上の総会」とし、「役員会報告メール」（本メール）をもって開催、何かあった場合はメール受信後 1 週間以内に代表者まで連絡いただく形をとりたい。

II. 2002 年度事業報告及び決算

1. 事業報告

0) 名簿製作（川井）

サロンの骨格でもある名簿は、以下の手順で作成されている。

- (1) 会員募集のメール発信（代表者・中塚から）
- (2) メールまたは FAX で代表者・中塚が受付（FAX で受けたものは打ち直し）

(3) 名簿担当・川井寿裕氏へ転送

川井氏は名簿の編集・校正作業と名簿発送のための準備を進める

(4) 名簿発送

ただし、入会申請の自己紹介文だけではだめ。会費納入が確認された方へのみ発送

「名簿作成作業を 2000 年度から続けてやっているので、だいぶスムーズにことが進むようになった。しかしながら本務との兼合いから週末にしか作業ができない状況であり、時間がかかる。また、この仕事を多くの会員に知ってもらいたいとも考える」(川井)。

1) 月例会 (中塚)

2002 年度も「お出かけ」や「出張」を含めて毎月月例会を開催した。残金は現時点で 31,000 円。

「月例会報告」が遅れぎみ。月例会の内容はホームページへ掲載してこそ価値が高まる。報告書作成者へは 5,000 円の制作費を支払っている。すみやかに作業してもらいたい。また発表者も、誰が報告書を作成するのかを意識して発表してもらいたい (作成者帯同で発表するなど)。

月例会テーマのうちいくつかは、会員から主体的に出て来るものであった。良い傾向である。

参加者は毎回 15 名前後。ただし「学生さんが多く、古株が少なくなってきたのではないか」(宇都宮)。その理由として、一つには「サッカーを語る場がサロン以外にも沢山できた (かつてはサロンしか語る場がなかった)」(宇都宮) ことがあげられるが、同時に「月例会参加者がサロンを"卒業"していき、より責任を伴ったステージで活躍されている現状がある」(中塚) との意見もあり、「"卒業生"が後輩を温かく見守る (そういった意味での Give and Take) 形」が、これからのサロンの一つのイメージとして認識された (あとで議論)。

2) プロジェクト

1) ワールドカップ・プロジェクト II

HP 上における"物語"収集について、「4 月末に HP 上に開設したが、投稿数は 22 件。それも特定の人に負うところが大きく、ほとんど集まらなかった。

立ち上げが遅かったのとプロモーション活動を行わなかったことが原因か」 (本多)。

その一方で、ワールドカップ総括シンポジウムと報告書は、期間がなかった割には充実したものができた。また、東京会場規模 (公営施設を用いてサロン会員が演者で交通費がかからない) であれば、参加費で十分運営できることがわかった。しかし神戸会場では J リーグの試合日と重なり、参加者が少なかったのが誤算だった。「地元の様子は地元にはかわからない。日程調整等を責任持って行うこと」(中塚) を今後の糧に、「兵庫県サッカー協会をはじめ神戸の方々とサロンのパイプが太くなっているの、神戸開催には今後とも可能性がある」(中塚)、「今後は協会を巻き込んだ形で展開したい」(本多) と前向きな見通しが示された。現時点でプロジェクトの収支は 115,118 円の赤字。全体会計からの補填をお願いしたいとのことである。

報告書売り上げは現在 26,000 円。前年度報告書の売り上げ (今も少しずつ売れている) が 10,500 円あった。石川県サッカー協会から 20 冊の注文があったのは大きい。また、和歌山県サッカー協会から、デンマークキャンプ報告書が届けられた。いろんな副産物があった。

2) 月例会で一度議論したのみで立ち消え。「プロジェクトではねらいと期間を明確化する必要がある」(宇都宮)。「フットサルはまだまだ取り組まなかんことが沢山あるのでやっていきたい」(本多)。全くそのとおり。

3) サポーターズ・プロジェクト 2002ー「未公認プロジェクト」

月例会で提起され、様々な議論の結果「サポーターズ・プロジェクト 2002 実行委員会」を別に組織し、J S A の支援のもとで進められることとなった同プロジェクトは、サロンの側から言うと、初の「未公認プロジェクト」であった。

まずは宇都宮氏の報告を引用する。議論は 2003 年度以降のサロンのあり方にまとめた。

●SP2002 から見える「未公認プロジェクト」の課題とサロンの今後 (宇都宮) SP2002 というプロジェクトは、それなりの成果を残した。それでは当プロジェクトは、当初議題に上ったサロン 2002 において、どのような成果を残したのだろうか？

筆者が考えるに、それは「ほとんど何もなかった」ということになる。

もちろん、参加した個々人には、それぞれの「財産」は生まれたかもしれない。しかしながら「サロン 2002 と一線を画した活動として行」われ、「サロン 2002 は SP2002 に関する一切の責を負わない」ものであったからだ。

筆者は、今回の一件で「未公認プロジェクト」を「(サロンとして) リスクを負わないプロジェクト」であると理解している。

当然のことながら、個人であれ組織であれ、何かしらの実績を残すためには、それなりのリスクが求められる。サロンとしてはリスクを払わなかったのであるから、実績など求められるはずもない。それは、リスクを負った「SP2002 実行委員会」のものであり、それをささえてくれた J S A のものであり、そして現場で取材にあたった一人ひとりの「当事者意識」に帰するものである(その意味で、現場ではノータッチであった宇都宮も結局はリスクを負わなかったわけで、当然ながらプロジェクトの実績からは遠いところにいる)。

誤解しないでいただきたいのだが、私は何も当プロジェクトについて「サロンにもリスクを負ってほしかった」と主張するつもりは毛頭ない。それは、現状の組織体系ではどだい無理な話である。「(法的に) 責任を取れない」組織に対して「リスクを負ってくれ」と依頼するのは、それこそ無責任のそしりを受けてしかるべきであろう。

今回の SP2002 については、サロンの 2 つの問題を突きつけたように思える。

(1) 「未公認プロジェクト」というプロジェクトは、プロジェクト立案者にとっても、サロンにとっても、あまり意味のある存在とはなり得なかった

(2) 今後、どんなプロジェクトやイベントを立案しても、サロンの現状を考えればリスクを負うことはできない

(1) については、今後「非公認プロジェクト」なるプロジェクトは廃止すべき である と考える。

(2) については、これからのサロンのあり方そのものが問われる問題なので、ここで深く言及するこ

とは控えたい。

今回、SP2002について、そしてこの「非公認プロジェクト」のサロンにおける「あり方」について改めて考察し、文章化してみて痛切に感じるのは、やはり「2002年以後のサロン2002のあり方」である。

すでに年が改まり、世の中は2003年になった。サッカーファンの視線は「ポストワールドカップ」に向かっている。われわれは、これからも「サロン2002」のままでよいのだろうか（単に「サロン2003」にすればよい、という意味ではもちろんない）。

サロンの存在意義が、現状のまま「会員のためのもの」に留まるべきなのか。それとも、会員だけが享受するものではない「何か」に進化すべきなのか。

われわれ一人ひとりが、どれだけ「2002年以後の日本のサッカー界」において当事者となるために、サロンはどうあるべきなのかーサロンにおける「個と組織」について、議論がなされる機会があれば幸いである。

3) 出張・合宿・お出かけサロン（中塚）

8月に行われた2回のシンポジウムと2月の「出張サロン in 刈谷」が、本年度、外へ出かけたイベント。いずれも参加者にとっては非常に有意義な情報交換でありネットワーク構築の機会であった。

刈谷では、サロンの会合を定期的に開くこととなり、刈谷のサッカーも少しずつ動き出したとの連絡があった。「2月例会報告」にて記載される予定（現在、刈谷サッカー協会副理事長原田和子氏が作成中）。出張サロンが種をまいていく様子がうれしい。

4) 情報発信

1) サロン2002通信（中塚）

毎月1回以上、会員には何らかの通信を送っているが、「月例会案内」の載っているものを「通信」としている。「月例会報告」はホームページを見れば載っている。会員のメリットの一つは「案内」が届くことである。

通信の経費は、例年どおり「葉書で案内を送った場合」を想定して算出したい。すなわち、50円×104名（会員数）×12回＝62,400円。独立回線を持っているならともかく、現状ではこのような算出基準に照らすのが妥当か。

2) 公式メーリングリスト（湧田）

2002年度は全会員が公式MLに加入することとした。個々の会員が情報発信者となり、従来より活性化されたと感じる。FAX会員（1名のみ）との情報格差が生まれることはやむをえない。

ML担当の湧田氏欠席のため現状と課題については報告なし→湧田さん、お願いします。

3) プロジェクトごとのメーリングリスト（湧田）

ワールドカップ・プロジェクトIIのMLが動いていた。このプロジェクトの「"物語"を集める」部分ではあまりうまく機能しなかったが、大会前はMLが利用されていたと思う。

プロジェクトのML代はプロジェクトから出す考えもあるが、各プロジェクトの活性化の意味も込めて全体会計から捻出したい。

4) サロン 2002 オフィシャルサイト (本多)

1年間の VISIT 数 (何人が見に来たか) は、この時点で 32,299。ワールドカップ期間が少し多かったが、それ以外は毎月 2500~2600 件ペースか。大々的なプロモーションをしていないのにこれだけ来ているという見方もできるし、少ないという見方もできる。

HPを多くの人に見てもらおうとするのか、会員に見てもらえればいいのかでだいぶ違ってくる。

2. 決算報告

1) 収支状況

収入の部は、前年度繰越金が 184,230 円、会費受入が 240,000 円、利息 33 円を含めて 424,263 円。

支出は、名簿制作費 (150 部) 71,000 円、名簿郵送費 18,690 円、消耗品 2,100 円、総会会場費 4,000 円で、この他にメーリングリスト契約料、通信費 (62,400 円)、プロジェクト補助 (約 12 万円) 等となる。決算の最終報告は 5 月総会時に行う。

2) 会員加入状況等

3 月 7 日時点では、入会意思表示者 104 名中、会費納入者が 94 名 (ただし、スギムラヒロミチ、コバヤシミュキの 2 名については、入会の意思表示がないが会費を納入されている)。

2 月 23 日(日)に、未納者に対してメールで督促 (1 回目)。12 名から会費が納入された。残る 10 名には、葉書で督促する予定。

Ⅲ. 2003 年度について

1. 2003 年度会員募集

昨年度は 3 月中の募集で、名簿ができたのが 5 月初旬であった。すぐに募集を開始しないと、後になればなるほど大きくずれ込む。

しかしながら、「会員のあり方」については議論しておく必要がある。あらかじめ意見をいただいていた仲澤氏のメールをもとに議論した。

●会員募集について (仲澤氏のメールより引用)

強い当事者意識、give and take というコンセプト、これは中塚先生の持論の中心部分かと思います。ただ、会の安定的な運営のためには、多くの組織が活用しているフリンジ会員の会費による支援というものを受け入れてもいいような気がします。その意味で、単年度会員制度というものを再度、検討してもらってはいかがでしょうか。会是のような「志」とは矛盾しますが、今は、コアのメンバーへの (ある意味の) エスカレーターに乗っている人の範囲が、一定の広がりにとどまっているように思います。フリ

ンジ会員のふり分けを行うスパンが短い(単年度)ことも背景にあるのではないのでしょうか。←的はずれであればいいのですが(後略)

●これを受けての議論

「強い当事者意識、give and take というコンセプトについては、私が代表である限りはこだわり続けたい。また、年に一度ぐらいは自分のかかわり方を考える機会が必要だろう。ただ、単年度の会員組織というのは見直してもいいかもしれない。月例会の様子からもわかるように、サロン 2002 はサッカー・スポーツの世界への"入り口"のような役目を果たしていて、ここを踏み台にしてより大きな社会的責任を負う立場にステップアップしていく人は大勢いる。その人たちは"卒業"してサロンの会員から離れているのだが、"卒業生"も含めたサロンの"クラブ化"(もしくは"体育会化"?)を目指すことも必要なのではないか」(中塚)

「もっと"新入生"を受け入れていい。スポーツで飯を食いたい人は大勢いる。しかし 20 代やそこらでは実現できない。そのときに、サロンのような場があり、スポーツと関わっている大人とコミュニケーションできる場はなかなかない。仕事を創出することも含めて、卒業生と新入生が出会う場となればいい」(宇都宮)

「一度入会したら、退会届を出すまでは会員であるというようにすれば手続きも簡単」(川井)

「会費は現在、一口いくらという形で、それぞれの実情に応じて支払ってもらっている。これを、毎年ある時期に会員ごとの金額を自動引き落とししても 行うことはできるのだろうか」(中塚)

「単なる任意団体ではできないだろう」(川井)

●この件まとめ

"単年度の会員組織"から"恒久的な会員組織"の可能性を模索する。ただし、2004 年度(以降)の会員募集に反映させるべく 2003 年度中に、役員会を中心に全会員で議論する。NPO 法人化も再び視野に入れる。

2003 年度会員については 3 月 10 日～4 月 10 日を会員手続き期間(この期間内だと名簿に掲載される。入会そのものはいつでも可)とする。募集方法・手続きは昨年どおり。

2. 規約の改正

●代表者と役員を選出方法に関して

2002 年度の総会議事録には「代表と幹事・監査役の選出方法、手続きを明確化するため、2003 年度から規約附則 3 及び 4 を改廃することを前提に役員会、メーリングリスト等で変更案を今後検討する」となっている。「組織化初年度用に仮に設けた附則であり、組織が軌道に乗ってきたら改廃するという前提であった」(川井)ものであるし、総会の方向性も尊重しなければならない。

しかし、2002 年度中は「役員会、メーリングリスト等」での議論は進まなかったし、会員からの意見も出てこなかった。そこまで手が回らなかったのが正直なところであるが、必要性に迫られなかったという点も指摘できる。2004 年度から「恒久的な会員組織」導入とするなら、ここが本格的な組織改革で

あり、この時に「代表と幹事・監査役の選出方法、手続き」の新方式を導入する必要に迫られるはずである。そこで2003年度こそ、役員会を中心に、会員全体で議論することが望ましいとの方向で話がまとまった。

●「サロン2002 設立宣言」と「概要」について（中塚）

「サロン2002 設立宣言」は、現行の「サロン2002 の概要」をもとに、規約にふさわしい文面で書き直された文書である。元からあったのは「サロン2002 の概要」なのだが、ひとたび設立宣言として文書化されると、そちらこそ「改廃できない性格のもの」（2002年度サロン総会議事録より）となる。

そこで、現在「サロン2002 の概要」としているものを、「設立宣言解説」として、ワールドカップ後にふさわしい内容に書き改めることとしたい。2003年5月の総会で審議できるよう準備する。

3. 2003年度の役員構成

組織化元年の2000年度の役員は、2年間同じメンバーでやっていただいた。2002年度役員にも、選出方法の話はあったにせよ、基本的には2年間お願いしたいというつもりでいた。

できれば2003年度も同じメンバーで進めたい。

「5月頃から2～3年、中国に赴任することになる。今は代表代行幹事だが、本年度の退会も考えていた。代表代行はできないと思う」（笹原）

「恒久的な会員組織への第一歩として、海外にいても会員として何ができるかのケースとして是非とどまり、役員も続けてほしい。ただ、代表代行は他の方をお願いしたい」（中塚）

●この件まとめ

欠席役員もいることから、「2003年度の役員は同じメンバーで、代表代行のみ後日、個別にお願いする」ことを前提に、代表者の方で話を進めていきたい。

4. 組織としてのサロン2002の今後

残り時間で、サロン2002の今後についてフリーディスカッションした。

●SP2002についての宇都宮氏の指摘をきっかけに

「SP2002への後ろ向きな姿勢は、1998年のインターナショナルフットボールフェスタのトラウマがあったかもしれない」（笹原）

「個人でできないから組織でカバーするというのが普通の考え。なぜサロンがその受け皿になれないのかおかしいではないかというお叱りを一部の会員からいただいた。個人的には、このプロジェクトにかかわるだけの余力（時間も労力も）はないなというのがあって乗り気になれなかったのが事実。誰かやってくれないかなという感じであって、誰かが進んでやってくれるのなら応援するよというスタンスだっ

た。サロンでやる人がいなかったという話」(中塚)

「シュートを打つところまでやりたい人がプロジェクトを立ち上げようというのがプロジェクトのそもそもの始まり」(笹原)

「サロン本体はゆるやかなネットワークで、プロジェクトが何らかの成果を残していくという考えでいた。NPOを目指すのならプロジェクト単位だろうと考えていた。しかし、ワールドカッププロジェクトにおいても、報告書を作ったのはプロジェクトの成果なのだが、外から見た場合、プロジェクトというよりも、サロン 2002 そのものの成果とみなされる。プロジェクトとサロン全体を分けて考えることはできないのではないかと感じている」(中塚)

●組織としてのサロン 2002 について

「サロンは"運営されているから成り立っている"ことを多くの会員が意識していないのではないかと。運営の部分を理解してもらいたい。ただその逆に、法人化されていないから長続きしている面もあるだろう」(川井)

●その他

「韓日戦応援ツアーなどをサロンでやると面白いのでは」(宇都宮)

「ある研究機関から研究費をいただいて海外視察に出かける話もある」(中塚)

5. 今後の進め方

今週中(15日まで)に「役員会報告(案)」を作成し、役員のチェックを経た後に会員に送信する。並行して3月10日より2003年度会員の募集を開始する(昨年度は3月1日から)。会費未納者には、会計担当川井氏より、「督促状」を葉書で出す。至急振り込んでいただきたい。